

成分名	カプリン酸
英名	Capric Acid
CAS No.	334-48-5
収載公定書	薬添規 外原規
A TOXNET DATABASE へのリンク	<a href="https://chem.nlm.nih.gov/chemidplus/rn/334-48-5">https://chem.nlm.nih.gov/chemidplus/rn/334-48-5</a>

投与経路	用途
一般外用剤	溶解補助剤

### JECFA の評価

評価は終了していない。

#### 1. 単回投与毒性

動物種	投与経路	LD50(PIM 290) <sup>1)</sup>	文献
ラット 雄、雌	経口	3300 mg/kg	Leung et al., 1990 <sup>1)</sup>
ラット 雄、雌	経口	3300 mg/kg	Smyth et al., 1962 <sup>1)</sup>

#### 2. 反復投与毒性

##### 2-1 ラット

雌雄混合の 10 匹のアルビノラットに 5000 mg/kg を摂取させるように、米食に 10% のデカン酸を混合して、150 日間投与した。胃を肉眼で観察した結果、前胃および、腺胃に顕著な変化は見られなかった。<sup>1)</sup> (Mori, 1953)

#### 3. 遺伝毒性

試験	試験系	濃度	結果	文献
復帰変異	サルモネラ菌 TA97、TA98、TA100 TA1535、TA1537	0.05 ml/plate	陰性	Zeiger et al. 1988 <sup>1)</sup>

#### 4. 癌原性

該当文献なし

#### 5. 生殖発生毒性

該当文献なし

#### 6. 局所刺激性

該当文献なし

#### 7. その他の毒性

該当文献なし

## 8. ヒトにおける知見

2カ所の研究所において、オクタン酸、デカン酸、ドデカン酸を希釈せずに4時間パッチ貼付し、陽性対照である20% SDSを貼付したものと比較した。すべての物質において刺激性が認められ、その刺激性はデカン酸 $\geq$ オクタン酸 > SDS >> ドデカン酸の順であった。経時的な応答パターンは2カ所の研究所の試験結果が酷似しており、また、各物質間における応答パターンも酷似していた。

<sup>2)</sup> (Robinson et al., 1999)

## 引用文献

- 1) WHO Food Additive Series No.48 Safety evaluation of certain food additives and contaminants. (accessed; Dec. 2004, <http://www.inchem.org/documents/jecfa/jecmono/v48je17.htm>)
- 2) Robinson MK, Whittle E, Basketter DA. A two-center study of the development of acute irritation responses to fatty acids. *Am J Contact Dermat.* 1999; 10: 136-145